

「岩木川治水史」発刊にあたって



岩木川治水史編纂委員会
委員長 佐々木 幹 夫

岩木川の治水に関する近代的な知見は明治政府の命によって調査を行ったオランダ人技師ムルデンの復命書にみられる。彼は河口閉塞の防止、護岸整備、安定河道の整備を重要視しており、方法論は別として適切な視点であった。津軽平野の水害は止むことなく、青森県にとっては岩木川の横暴を国に治めてもらうしかなかった。青森県からの明治政府への精力的な治水の請願により、80年前の1918年12月1日には中央政府による岩木川改修事務所が五所川原町に設置された。以後、岩木川の治水事業は国の手により本格的に行われるようになった。当時、岩木川の河口は日本海の荒波のため閉塞し、時にはその被害は上流に及ぶ甚大なものとなり、その防止対策は緊急かつ深刻なものであった。藩政時代から青森県政にいたる300年間に多くの水戸口工事が行われた。しかし、それらはことごとく失敗した。ところが、岩木川の治水事業が直轄で行われるようになり、現水戸口導流堤の成功によりその閉塞の幕は閉じている。

ここに、岩木川治水80周年記念事業の一環として「岩木川治水史」を発刊した。本書の初案および編集作業は岩木川治水史編集ワーキンググループが行い、本委員会はそれを基に修正、構成および編集の実質的な審議を進めてこの発刊に至ったものである。本書は岩木川における災害や治水等の過去の史実を後世に残すことにより、これまでの偉業が正しく受け継がれ発展させられることを目的にしたもので、今後の川づくりや地域づくり、河川整備の一助となることを委員一同念願しています。

「岩木川治水史」 編纂に携わった人

【岩木川治水史編纂委員】

氏 名	役 職 名 等
内 山 忠	元 (株)東奥日報社勤務 役員室長
柿 崎 敬 一	青森県立郷土館 副館長
工 藤 幸 夫	(株)陸奥新報社 東京支社長
斉 藤 精 鋭	(株)東奥日報社 調査広報室長
佐々木 幹 夫	八戸工業大学 土木工学科教授
高 橋 秀 雄	(株)建設技術研究所 仙台支社長(元青森工事事務所長)
長谷川 清	元 小学校校長
早 坂 征 三	東北地方建設局 青森工事事務所長

〔名前は五十音順〕

【岩木川治水史第一次編纂者】

氏 名	役 職 名 等
内 山 忠	元 (株)東奥日報社勤務 役員室長
長 内 忠 義	元 (社)東北建設協会青森支所長
柿 崎 敬 一	青森県立郷土館 副館長
高 橋 秀 雄	(株)建設技術研究所 仙台支社長(元青森工事事務所長)
田 村 善四郎	元 建設省青森工事事務所 五所川原出張所
奈 良 スミ子	元 小学校教諭
長谷川 清	元 小学校校長
渡 部 保 雄	元 建設省青森工事事務所工務第一課長

〔名前は五十音順〕

【岩木川治水史ワーキンググループ】

氏 名	役 職 名 等
澤 田 優	青森工事事務所 事務副所長
三 浦 清 志	〃 河川副所長
葛 西 喜美雄	〃 工務第一課長
堀 切 英 二	〃 調査第一課長
藤 村 俊 雄	〃 河川管理課長
鬼 同 哲 夫	〃 工務第一課工務係長
舘 山 悟	〃 調査第一課第一係長
野 呂 幸 市	〃 河川管理課河川維持係長
佐 藤 隆 志	〃 五所川原出張所長
吉 田 敏 夫	〃 藤崎出張所長
田 村 保 憲	津軽ダム工事事務所 工務課長
船 木 純 孝	〃 調査設計課長
佐 藤 徹 志	浅瀬石川ダム管理所 管理係長
長 尾 廣	(社)東北建設協会 青森支所長
佐 藤 牧 子	(社)東北建設協会

津軽平野と岩木川のあゆみ

岩木川治水史

企画/発行 平成11年3月
建設省東北地方建設局
青森工事事務所
〒030-0822 青森市中央3丁目20の38
☎0177-34-4521(代)

編 集 社団法人東北建設協会
〒980-0871 仙台市青葉区八幡1丁目4の16
☎022-268-4611(代)

印 刷 青森オフセット印刷(株)
〒030-0802 青森市本町2丁目11の16
☎0177-75-1431
